

牧師室から (2022.1.30)

新型コロナウイルスの感染がなかなか収まらない。特にオミクロン変異株にはさらにいくつかの派生株も生じており、感染が広がっている。

新型コロナウィルスがなかなか収束しないというのは、変異しやすいという性質があるからではないだろうか。年末に、関西で生命工学を専攻している妻の甥が、横浜での学会の帰りに私どものところに寄って一泊したが、その折に久しぶりにゆっくり話すことができた。その中で、やはりこの新型ウィルスが変異しやすいのはRNAウィルスであるからだろうと言っていた。つまり、DNAは二重らせんが梯子状になっている構造なのでかなり安定していて変異はしにくい、RNAは一本鎖なので不安定で変異しやすいのだ。だが変異しやすいこと自体は、その生命体にとって必ずしも悪いわけではない。生き延びるために、状況の変化に対応して変異することによって、その種はしたたかに絶滅を避けている。

今年度の初めに、教会総会において小生は短くメッセージをさせて頂いたが、確かに教会には変えてはいけない本質的なものはあるが、しかし変えるところは変えていって、大切であって変えてはいけないもの、例えば中心的なドグマなどをそのまま守り続け、教会を存続させていかなければならないということ述べた。教会は、神様ご自身が守り導いてくださるものだから、全てを委ねればよいことではあるが、さりとして私どもが何もしなくてもよいかというわけではない。地上の教会に集って礼拝をしている私どもは、祈り、信仰と知恵をもって共に教会を支えていきたいと願っている。

(鈴木淳一牧師)